

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.41

【日常の中から哲学を実践!】


私の親しい友人（女性）のほとんどは、仕事に誇りをもってがんばる人ばかりなのが自慢です。友人の中に医師、薬剤師、看護師などの医療人やケアマネなどの介護従事者がいると心強いものですが、幸いにも浅草という地縁をもとにスーパー薬剤師の“みやちゃん”こと宮原富士子さんとお仕事をご一緒させていただくことで、医療・介護分野のお仲間が増えて嬉しい限りです。ぐぐ〜っと親密度を上げると、私の周りには従妹と学生時代の友人の2人がベテラン看護師として働いています。

従妹は、最初は事務職の仕事をしていましたが働きながら看護師資格をとり、現在は病院看護師です。数年前、私の母が認知症の診断を受けた時から現在までずっとケアをしてきていて、本当に助かっています。

故郷の友人の方は、病院看護師として長く勤務した後、一時実家の商売を手伝っていましたが、数年前から看護職に復帰、現在は高齢者施設の看護師として働いています。仲間の多くが家族の介護問題に直面しているため、面倒見のいいナイチンゲールは仲間たちの相談役として重宝されています。

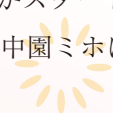
国家資格をもっているため可能な限り、自身で働く時期や職場を自由に選ぶことができているですね。その点、資格などなくても開業できるライター業の私は、ずっと競争の激しい現場で余裕とは無縁の働き方をしてきたような気がします。

驚くことに、最近もう一人の親しい学生時代の友人が、看護師補助として経験のない分野に（しかも決して若くはありません！）足を踏み入れてがんばっていることを知りました。言うまでもなく、コロナ禍で看護師が不足したり疲弊していたりしている現実をみて、お役にたきたいという強い思いからだそうです。詳しくきくと、肝臓の持病がある彼女のご主人はこれまで幾度も病院のお世話になり、死別の覚悟を決めたことも多々あるそうです。病院の適切な処置のおかげで現在は落ち着いていることもあり、恩返しのためでチャレンジしたとのこと。あとどのくらい働けるかわからないならば働ける時間を世のため人のために使いたいという精神は、スゴイですスバラシイです。がんばってほしいです！



10月にはいつだって晴天日に恵まれませんでしたが、10月20日は秋晴れのさわやかな一日でした。天高く、真っ青な空、空気が乾燥し、最高の行楽日和・洗濯日和でした。家中の窓を開放し、夏用のカーテンから冬用のカーテンに変えましたら、全く違う部屋のように見えるから不思議です。日々の生活にはこういうちょっとした変化が漫然とした雰囲気を一変し、フレッシュな感覚をつれてくるので必要ですね！

さて、この日は、夜9時から新番組「ザ・トラベルナース」がスタートしました。私のお気に入りテレビドラマ第一位の「ドクターX ～外科医・大門未知子」の脚本家・中園ミホによる作品ということで注目しており、初回をワクワクしてみました。



全体の構成は「ドクターX～」に似ていて、主役の男性看護師が「ドクターX～」の大門医師と同じくフラーランスという働き方になっています。いいですね、くだらないしがらみに左右されず、一生懸命に取得した国家資格で少しでも多くの生命を救う！ そのためには医療ピラミッドの頂点に君臨する医師にもズケズケ意見をいう。この作品は性格も年齢も背景も違う2人のトラベルナース（岡田将生、中井貴一）が物語をひっぱっていき、「ナース・プラクティショナー」という一定の医療行為が認められている看護師でも日本では許されず、苦しんでいる患者さんに対して何もできないもどかしさ、矛盾などが描かれ医療の現場の問題を浮き彫りにしていきます。

自尊心に固執し病気を見逃して訴訟を招くよりも、看護師であれ薬剤師であれメンバーの適切な意見を認めて採用するほうが全体の利益になるはずなのに、と誰もが思うはずなのですが……。

★ドラマ「ザ・トラベルナース」

https://www.tv-asahi.co.jp/the_travelnurse/

本作では、「ドクターX～」同様、情けないドクターが多く登場しますが、言うまでもなくそんな医師ばかりではありません。看護師についても、ナイチンゲールと見紛う立派な人もいればそうでない人もいます。私自身、過去にとんでもない医師や看護師にあっけびっくりしたことがあります。「24時間間医師であれ！」という崇高な意識を持ち続けるのは確かに難しいのかもしれませんが……。プロフェッショナル意識は哲学と切り離せないようです。

最強の2人の活躍、次回も楽しみですね！

